



平成22年3月期 決算説明資料

平成22年5月19日



証券コード: 1905

目次



平成22年3月期 決算の概要

平成23年3月期 業績見通し

テノックスの強みについて

- 当資料は、現時点で入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づくものであります。
- 経営環境の変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績は記載の予想値と大きく異なる結果となる可能性があります。



平成22年3月期 決算の概要

平成23年3月期 業績見通し

テノックスの強みについて

平成22年3月期 決算の概要



- ▶ 民間建築工事が減少したことなどにより、減収
- ▶ 不採算工事の減少や経費削減に努めたことなどにより、増益

■ 連結売上高	203億38百万円	前年同期比 58億25百万円(22.3%) 減 ✓ 建設事業において、民間建築工事が減少したことなどによる
■ 連結営業利益	4億2百万円	前年同期比+1億98百万円(+97.4%) 増 ✓ 不採算工事の減少や、経費削減に努めたことなどによる
■ 連結経常利益	4億4百万円	前年同期比+1億53百万円(+61.3%) 増 ✓ 営業利益の増加などによる
■ 連結当期純利益	2億31百万円	前年同期比+1億11百万円(+92.5%) 増 ✓ 営業利益や固定資産売却益の増加などによる
■ 受注高	192億9百万円	前年同期比 39億14百万円(16.9%) 減 ✓ 建設事業において、民間建築工事が減少したことなどによる
■ 受注残高	40億6百万円	前年同期比 8億95百万円(18.3%) 減 ✓ 建設事業において、道路関係工事の受注が減少したことなどによる

注) 当連結会計年度より「工事契約に関する会計基準」を適用し、成果の確実性が認められる工事については工事進行基準を適用しております。

連結損益計算書の概要



▶ 不採算工事の減少や経費削減に努めたことなどにより、増益

(単位:百万円)

	21/3期	売上高比	22/3期	売上高比	前年同期比	
売上高	26,164	-	20,338	-	5,825	22.3%
売上原価	23,551	90.0%	17,860	87.8%	5,690	24.2%
売上総利益	2,613	10.0%	2,478	12.2%	134	5.2%
販管費	2,409	9.2%	2,075	10.2%	333	13.8%
営業利益	203	0.8%	402	2.0%	+198	+97.4%
経常利益	250	1.0%	404	2.0%	+153	+61.3%
当期純利益	120	0.5%	231	1.1%	+111	+92.5%

連結貸借対照表の概要



大型土木工事が完了したことにより、

- ▶ 流動資産：受取手形・完成工事未収入金等が減少
- ▶ 流動負債：支払手形・工事未払金等が減少

(単位：百万円)

	21/3期末	22/3期末	前期末比	
流動資産	13,233	11,373	1,859	14.1%
固定資産	4,318	4,232	86	2.0%
資産合計	17,552	15,606	1,946	11.1%
流動負債	7,876	5,131	2,745	34.9%
固定負債	1,077	1,642	+565	+52.4%
(有利子負債)	(742)	(876)	(+133)	(+18.0%)
負債合計	8,954	6,773	2,180	24.4%
純資産合計	8,598	8,832	+234	+2.7%
(自己資本比率)	(47.0%)	(54.0%)	(+7.0ポイント)	-

連結キャッシュ・フローの概要



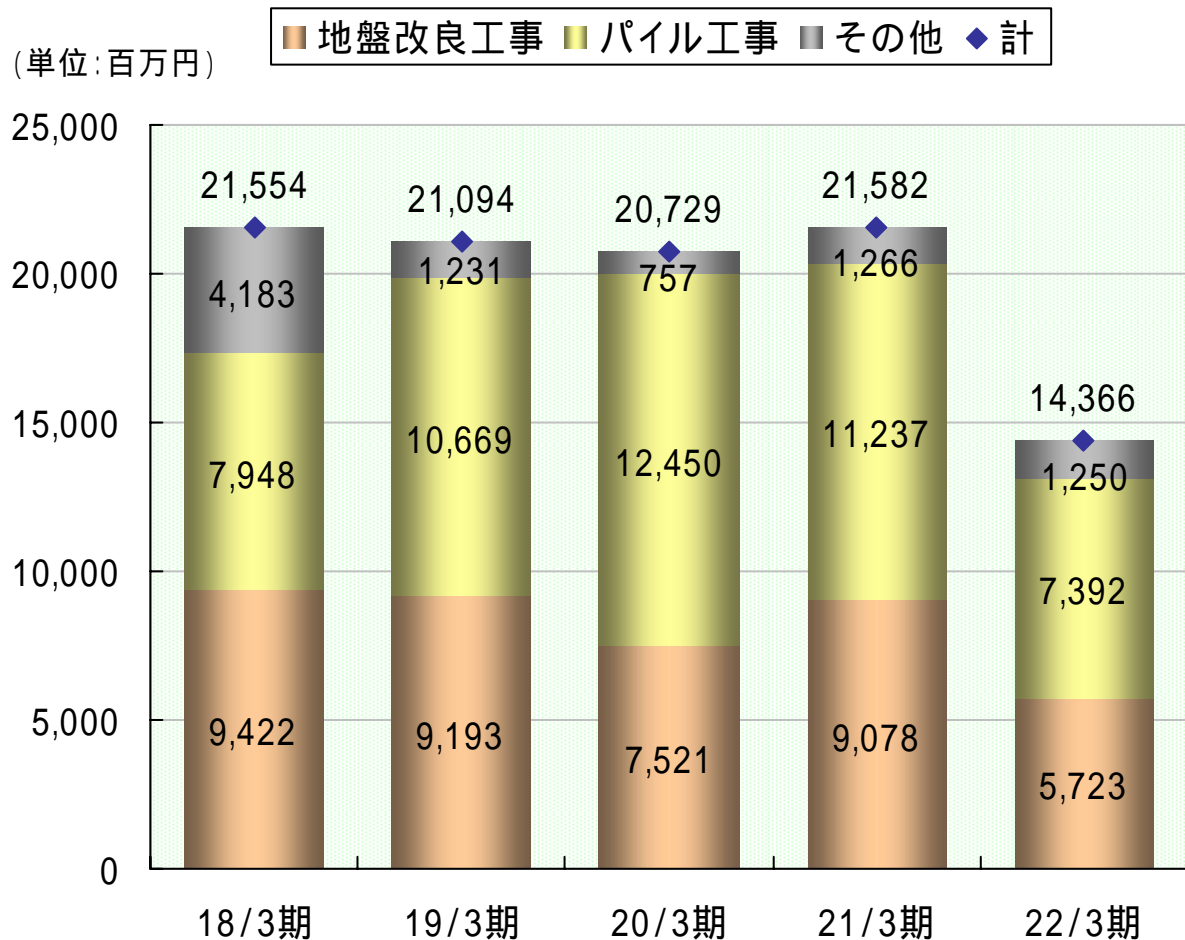
(単位:百万円)

	[参考] 21/3(前期)	22/3(当期)	当期の主な要因
営業活動による キャッシュ・フロー	153	2,091	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 増加: 売上債権の減少 28億14百万円 未成工事支出金等の減少 11億42百万円 ✓ 減少: 仕入債務の減少 21億40百万円
投資活動による キャッシュ・フロー	324	58	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 増加: 有形固定資産の売却による収入 2億 7百万円 ✓ 減少: 有形固定資産の取得による支出 2億85百万円
財務活動による キャッシュ・フロー	81	161	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 増加: 長期借入れによる収入 4億47百万円 ✓ 減少: 割賦債務の返済による支出 2億18百万円 長期借入金の返済による支出 1億22百万円 社債の償還による支出 1億00百万円 配当金の支払額 64百万円
現金及び現金同等物 の増減額	397	1,871	
現金及び現金同等物 の期末残高	3,873	5,745	

売上高の推移 (単体)



セグメントの状況 (単体)



- パイル工事：
倉庫などの民間大型物件
が減少したことにより減収
- 地盤改良工事：
マンションや工場などの建
築物件が減少したことによ
り減収

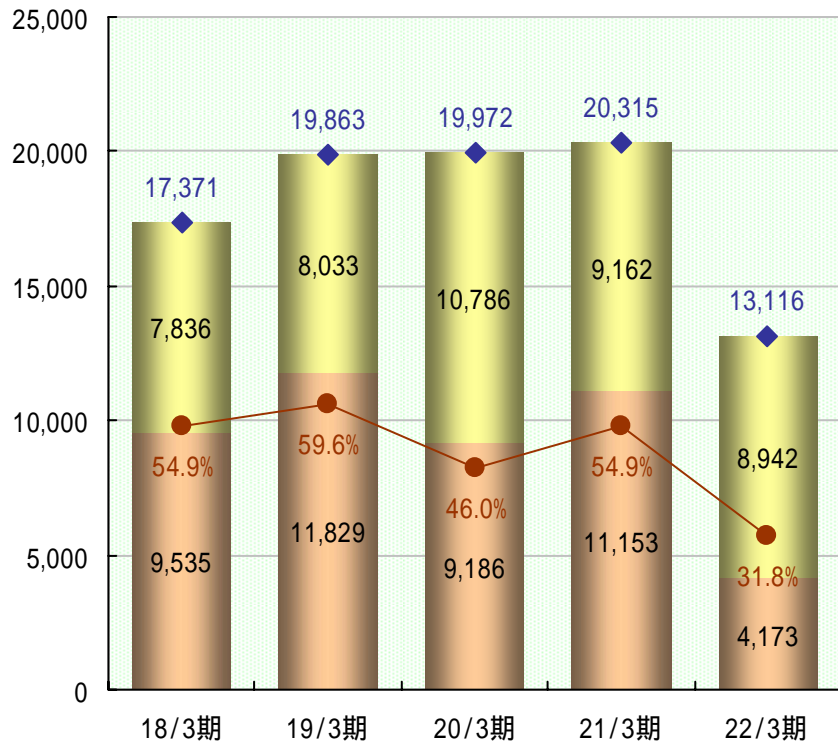
完成工事高の状況(単体)



官公庁vs民間の推移(単体)

■ 民間 ■ 官公庁 ◆ 計 ● 民間の割合

(単位:百万円)

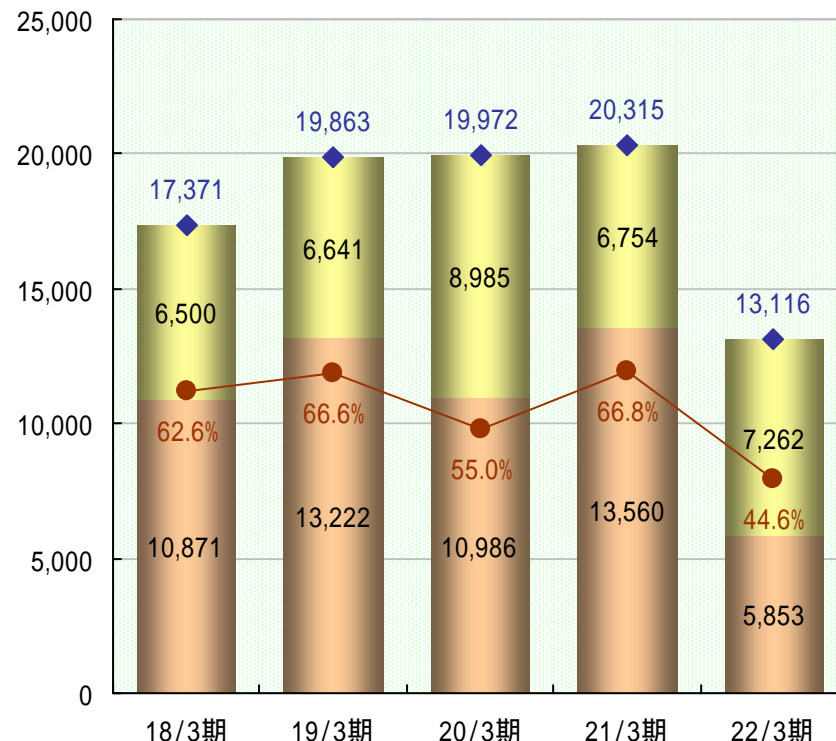


- 官公庁は、ほぼ前年並み
- 民間は、マンション・倉庫など減少

土木vs建築の推移(単体)

■ 建築 ■ 土木 ◆ 計 ● 建築の割合

(単位:百万円)



- 土木は、道路など増加
- 建築は、マンション・倉庫など減少

工法の構成比率(単体)

	(参考) 21/3(前期)	22/3(当期)	当期の状況
テノコラム	31.5%	30.4%	前年同期比 37.7%減 ✓ マンションなどの建築物件が減少したことによる
ATTコラム	9.0%	9.8%	前年同期比 30.0%減 ✓ 工場などの建築物件が減少したことによる
TN-X	17.4%	1.3%	前年同期比 95.2%減 ✓ 倉庫などの大型物件が減少したことによる
ガンテツパイル	21.7%	41.9%	前年同期比+24.6%増 ✓ 道路などの大型物件が増加したことによる
NSエコパイル	4.5%	3.1%	前年同期比 55.8%減 ✓ 病院などの物件が減少したことによる
その他	15.9%	13.5%	前年同期比 44.7%減
完成工事高合計	100.0%	100.0%	

注) 構成比率は前期まで総売上高に対する比率で表示しておりましたが、当期より完成工事高に対する比率に変更しております。



平成22年3月期 決算の概要

平成23年3月期 業績見通し

テノックスの強みについて

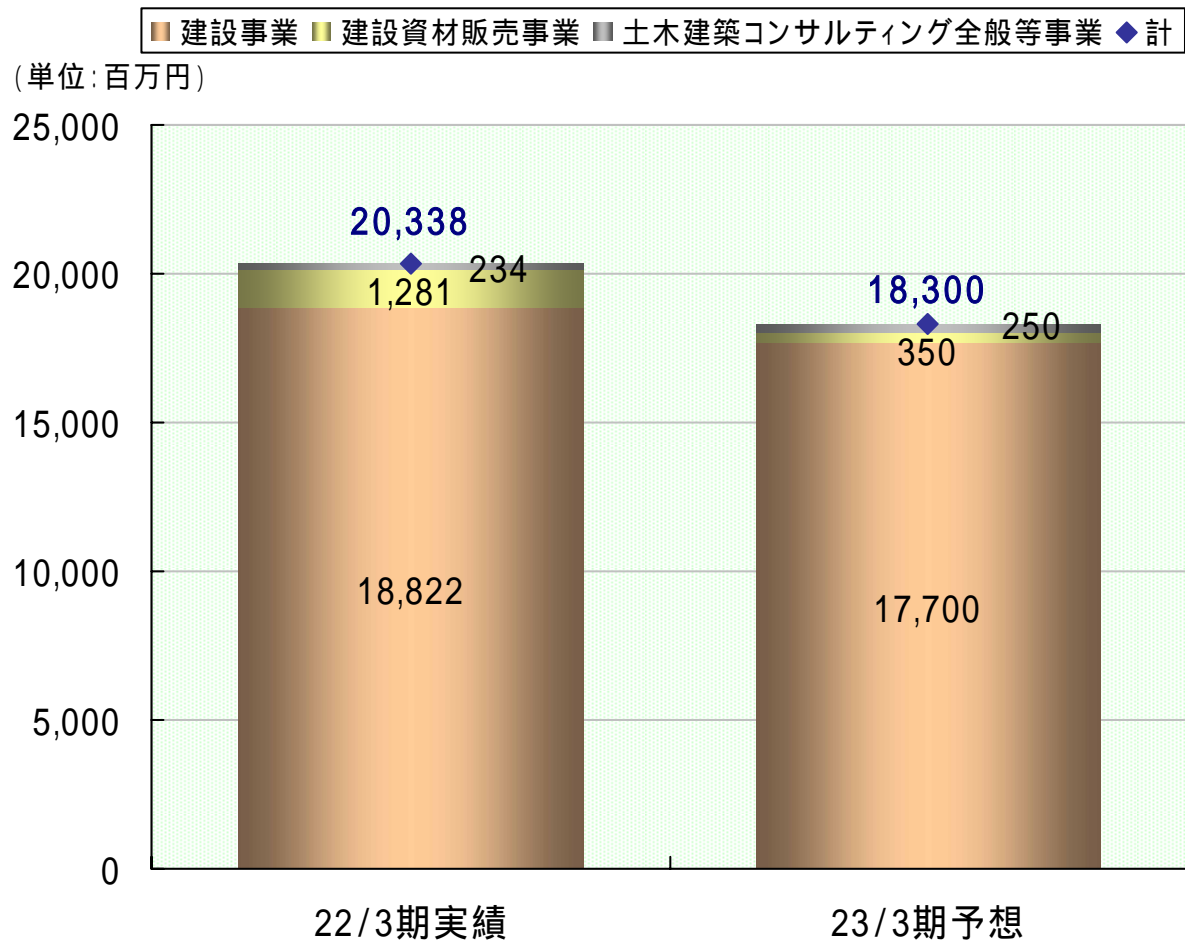
平成23年3月期 業績見通し



建設需要の縮減による受注競争の激化が見込まれるが、
施工効率の向上と引き続き徹底した経費削減などに取り組むことにより、利益を確保

■ 連結売上高	《予想》 183億00百万円	22/3期比 20億38百万円(10.0%)減 ✓ 建設需要の縮減による受注競争の激化
■ 連結営業利益	《予想》 1億60百万円	22/3期比 2億42百万円(60.3%)減
■ 連結経常利益	《予想》 1億90百万円	22/3期比 2億14百万円(53.1%)減
■ 連結当期純利益	《予想》 1億00百万円	22/3期比 1億31百万円(56.9%)減

セグメントの見通し(連結)

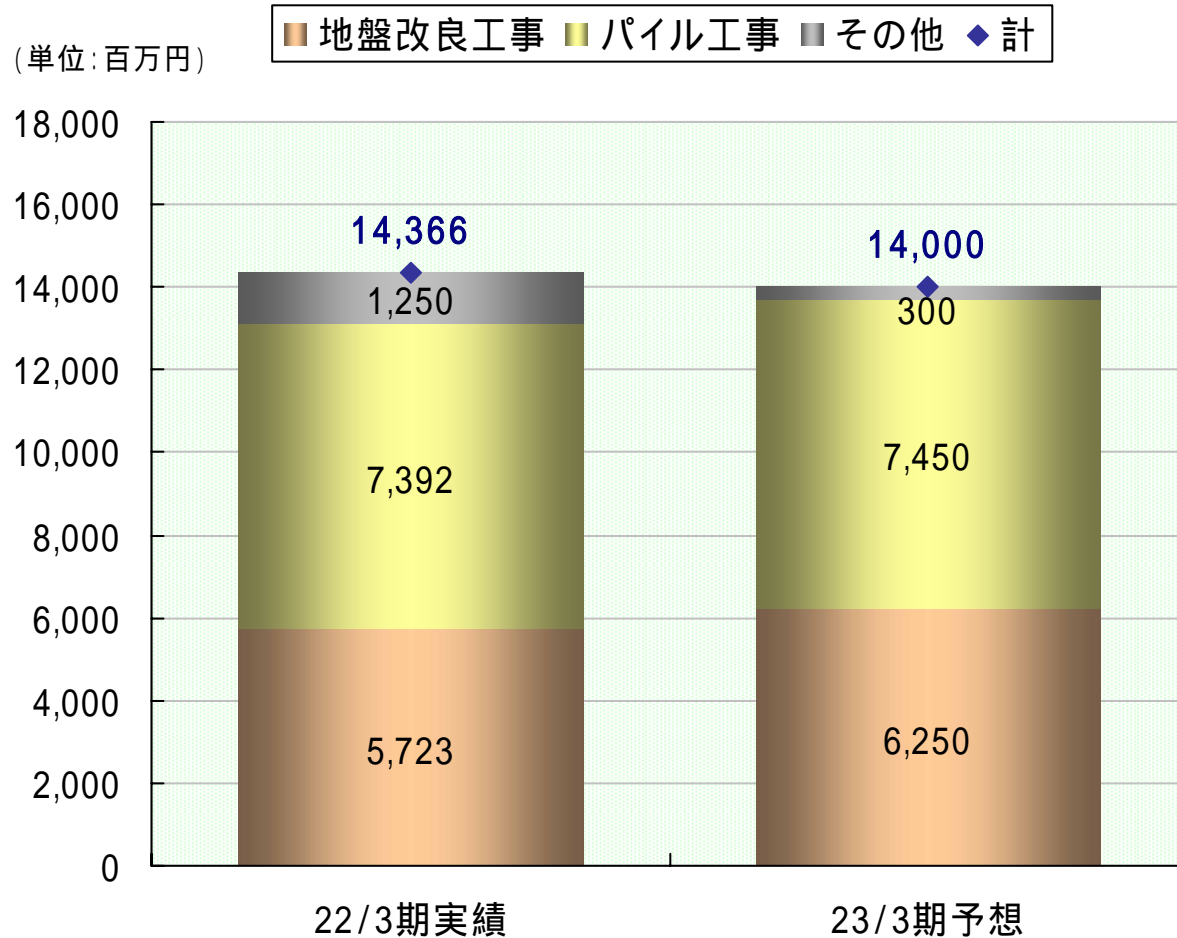


➤ 建設事業:
厳しい受注環境が見込ま
れ減収

売上高の見通し(単体)



セグメントの見通し(単体)



➤ パイル工事・地盤改良工事ともに、前年並みの確保を目指す

投資計画等について



収益力の向上に資するよう、投資の最適化を図る

(単体)

■設備投資額	《予想》 2.0億円	22/3期比+88百万円(+79.0%)増 ✓ 主に施工機械の買い換えによる
■減価償却費	《予想》 3.5億円	22/3期比 58百万円(14.3%)減 ✓ 主に施工機械などの償却による
■研究開発費	《予想》 0.7億円	22/3期比+34百万円(+97.0%)増

弊社を取り巻く
経営環境は
大変に厳しい

- 公共投資の縮減
(財政難等)
- 民間建設投資も楽観しえない
(少子高齢成熟社会)
(世界経済の停滞)

弊社の強みを
最大限に活用

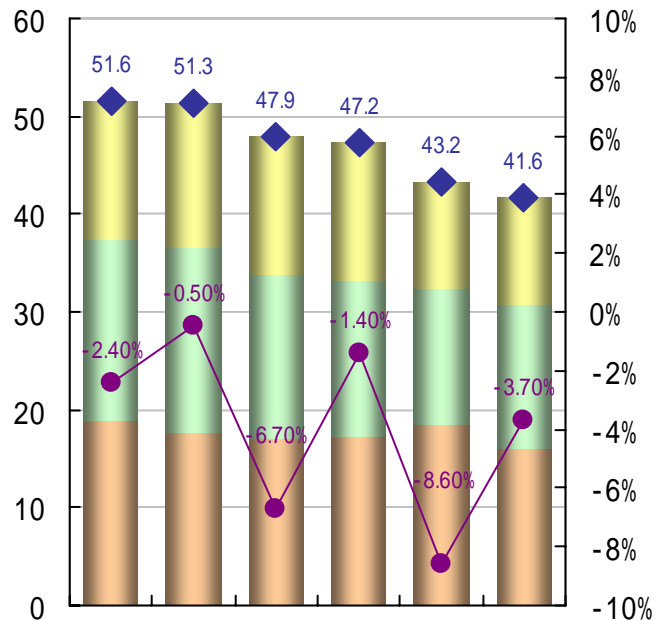
- 独自の高い技術力
- さまざまな環境問題への取組み

現在抱えている
問題点の把握と解決

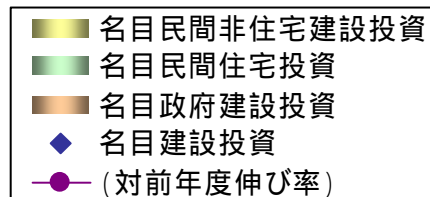
- 受注回復に向けた営業力の強化
- 更なるコスト削減への取組み

(単位:兆円)

建設投資の推移



H17年度
H18年度
H19年度(見込み)
H20年度(見込み)
H21年度(見通し)
H22年度(見通し)



出典:「建設経済レポート」No.53(平成21年10月)

平成22年3月期 決算の概要

平成23年3月期 業績見通し

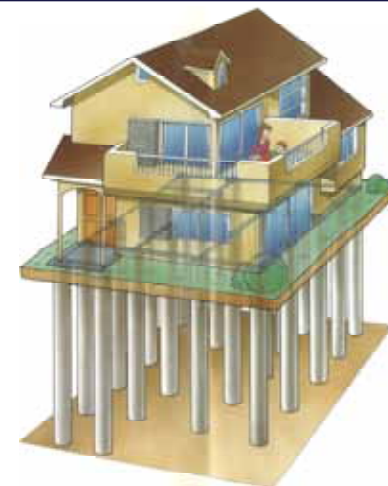
テノックスの強みについて

『基礎』工事の重要性



我が国は地震国であり、また、
多くの都市が水辺の軟弱地盤上にあります

建築物および土木構造物を安全に支持する
基礎工事は極めて重要です



我が国では、目に見えない基礎に対して、
『縁の下の力持ち』としてその価値を認める文化があります

当社は日本の縁の下の力持ちとなるべく、
常に杭基礎工法や地盤改良基礎工法の
リーディングカンパニーとして新工法を開発してきました

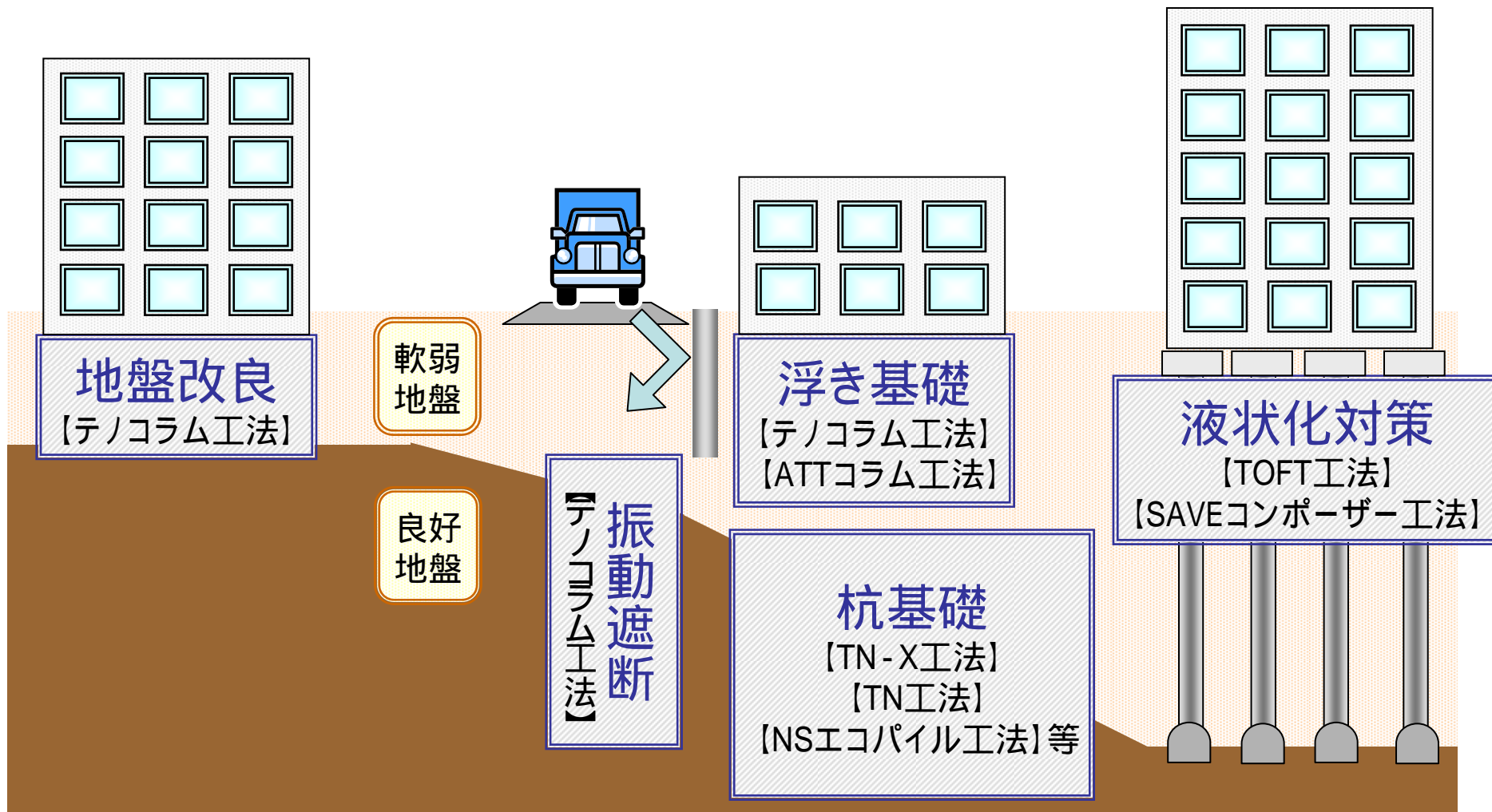
今後も、環境に配慮し、かつ、
コストパフォーマンスの高い基礎工法を世に問うてまいります

事業の概要



建築分野

建築構造物基礎等について環境を考慮した対策工法を提供



土木分野

土木構造物基礎等について環境を考慮した対策工法を提供

盛土沈下抑制

【コラムアプローチ工法】



高架橋等

良好
地盤

ポリマーを用いた
免震壁

軟弱
地盤

杭基礎

【ガンテツパイル工法】
【TN工法】【CMJ工法】
【NSエコパイル工法】等

テノックスの“独自工法”について



『環境』問題および『耐震』対策に幅広く対応しうる”技術”を志向した独自工法

地盤改良

【固化】 テノコラム工法

平成20年
進歩

セメント系固化材と原位置土を攪拌混合し、固化反応によって地中に改良柱体(ソイルセメントコラム)を造る地盤改良工法を独自に開発

平成20年10月に最大改良柱体径を
1600 2600に拡大

- 低騒音・低振動
- 原位置土を自ら利用
- 汚染土壌の封鎖
- 発生残土少

【締固め】 SAVE コンポーザー工法

液状化対策工法の代表であるサンドコンパクション工法の施工法を改良(ライセンス技術)

静的な圧入装置を用いて地中に砂杭を造る
周辺環境に配慮した工法

- 低騒音・低振動
- 発生残土ナシ
- 建設廃材の利用

パイル

【高支持力杭】 TN-X工法

平成21年
進歩

拡大・縮小可能な掘削ヘッドにより杭先端に拡大根固め部を築造する高支持力杭工法

平成21年3月に最大杭径を
1200 1400に拡大

- 低騒音・低振動
- 発生残土少
- 基礎の合理化

【回転埋設杭】 NSエコパイル EAZETパイル

先端にらせん状の羽根を付けた鋼管杭を地盤に回転圧入する工法

- 低騒音・低振動
- 発生残土ナシ
- 狭い敷地にも対応

テノックスの“独自工法”について



独自技術をさらに応用した新しい工法・分野への適用

地盤改良
+
パイル

ガンテツパイル工法
ATTコラム

平成21年
進歩

機械式攪拌混合による柱状改良体に鋼管杭や羽根付き鋼管杭を合成した複合杭

発生残土が少なく高い周面抵抗力性能を持ち、地震時にも高い耐震性能を発揮

平成21年1月にATTコラムは引き抜き評定を取得し、さらに耐震性能を強化

- 低騒音・低振動
- 発生残土少
- 高摩擦力
- 高耐震性能

新技術

ポリマーを用いた
免震壁

地震時の地盤変位の緩衝材

地盤変位の緩衝材として、遮水性と変形性に優れている

- 低騒音・低振動
- 狭い敷地にも対応
- メンテナンスフリー

テノックスの“強み”について



高い“技術力”を武器に、他社と差別化し、競争を勝ち抜く

独自技術の開発
施工ノウハウの蓄積

他者の追随を許さない施工技術
独自技術に対する高い評価

多くの**事業パートナー**を誘引

設計サービスから施工まで
一貫した技術提供

顧客からの信頼の獲得

多くの**リピーター**の発生

“強み”の活用：環境問題への対応力



施工条件(地盤条件・周辺環境など)に応じた環境問題への迅速な対応

- 低騒音・低振動
- 少ない排土量

➤ すべての工法が対応可能



工法例



- 無排土施工
- リサイクル

- 地震時の
地盤変位の緩衝材

低公害から環境対応型へ！

➤ NSエコパイル工法

➤ EAZET工法

先端羽根付き鋼管杭を回転埋設する工法のため発生残土ナシ
杭材は逆回転させながら引抜きが可能でリサイクルできる

➤ ポリマーを用いた免震壁

地下構造物あるいは開削トンネルなど



“強み”の活用：優れた耐震性能と経済合理性



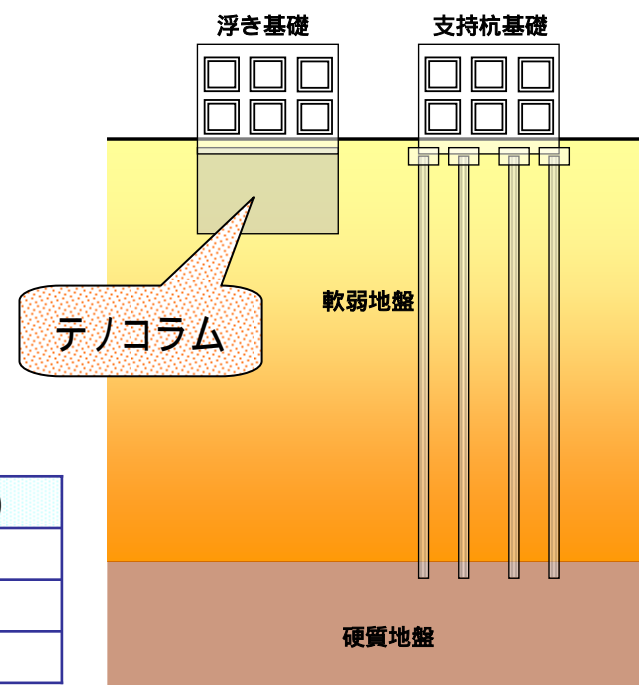
実績に裏打ちされた優れた耐震性能、経済性を高めた特殊な基礎施工事例

- 「阪神大震災」「新潟中越地震」「能登半島地震」「新潟中越沖地震」において、テノコラムを用いたすべての建築物が無被害であった
テノコラム工法の信頼性が改めて実証された

- テノコラムによる浮き基礎で経済性を追求
浮き基礎事例



比較検討断面図



工法別コスト比較(当社試算)

工法名	テノコラム(浮き基礎)	既製杭(支持杭)
杭長(m)	7	36
コラム・杭本数	920	99
コスト比率	0.6	1.0

テノコラム工法

“強み”の活用：優れた耐震性能と経済合理性



優れた施工・耐震技術が、公共工事・耐震補強基礎において数多く採用

ガンテツパイル工法

- 平成14年3月、道路橋示方書・同解説に新工法として記載
- 平成18年1月、一般土木工法 審査証明 取得(技審証第15号)
信頼性の高い工法

近接施工例



NSエコパイル工法

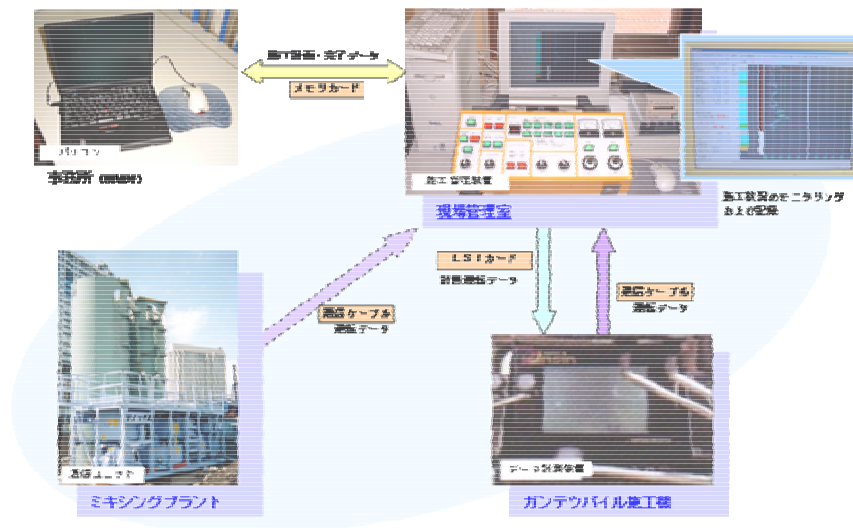
- 鋼管の先端に螺旋状の羽根を溶接した鋼管杭
先端羽根のネジ効果で推進力を発揮することにより、スムーズな貫入が可能
無排土施工を実現、周辺地盤を締め固める効果も

“強み”の活用：品質管理の可視化



品質管理の可視化により、価格競争から脱却、価値競争を生き抜く

■地盤改良	テノコラム工法	リアルタイム型施工管理装置(スーパーシステム)の導入	平成20年大径追加
■パイル	TN-X工法	直接目で見ることのできない地中における根固め球根築造をリアルタイムに管理する先端アイシステム	平成21年大径追加
■地盤改良 + パイル	ガンテツパイル	高品質・高能率が認められ、国交省の「公共工事等における新技術活用システム」において、推奨技術候補として選定された技術	



経営理念：人間尊重・技術志向・積極一貫

私達は、「信頼されるテノックス」として、これからも土や地盤と素直に向き合いながら、積極的に研究・開発を進めていくとともに、安全・確実な施工管理体制のもと、信頼できる施工をご提供していくことをモットーに、お客様のご要望にお応えしてまいります

本社	〒107-8533 東京都港区赤坂六丁目13番7号
設立	昭和45年7月8日
資本金	17億1,090万円
代表者	代表取締役社長 青木 功
従業員数	単体 172名(平均年齢 42.1歳)
営業所	札幌、仙台、金沢、名古屋、大阪、 広島、福岡
出張所	秋田、米子
機材センター	船橋

地盤と社会基盤施設との調和を図る



ホームページ：<http://www.tenox.co.jp/>

お問い合わせ先：総務部 IR担当

電話：03-3582-1873

Email：kanbayasi-a@tenox.co.jp

ご参考: テノックスの沿革



S 45.	7月	テノックス設立 旭化成工業(株)の代理店としてコンクリートパイルの販売、施工を開始
S 52.	2月	既製杭の施工法(中掘工法)特許取得
S 54.	9月	テノコラム工法自社開発(S 5 9 . 3月、特許取得)(H 1 0 . 1 0月、(財)先端建設技術センターが行う技術審査証明取得)
S 55.	5月	旭化成建材(株)との共同研究開発によるCMJ工法(コンクリート杭中掘拡大根固め工法)建設大臣認定取得
S 58.	10月	住友セメント(株)とテノコラム工法を用いた低層建築物基礎工法に関する研究開発に関して提携
S 60.	5月	新日本製鐵(株)との共同研究開発によるTN工法(低振動、低騒音杭基礎工法)建設大臣認定取得
H元.	9月	ミサワホーム(株)とテノコラム工法に基づく戸建住宅地盤改良の建設大臣認定取得
H3.	11月	日本証券業協会の店頭売買銘柄として登録
H7.	3月	新日本製鐵(株)および(株)クボタとの共同研究開発によるガンテツパイル工法(鋼管ソイルセメント杭工法)、(財)国土開発技術研究センターが行う技術審査証明取得
H 15.	7月	旭化成建材(株)との共同研究開発によるATTコラム工法、国土交通大臣認定取得
H 16.	12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場
H 17.	6月	新日本製鐵(株)との共同研究開発によるTN-X工法、国土交通大臣認定取得
H 21.	4月	大阪証券取引所とジャスダック証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所JASDAQ市場に株式を上場

ご参考:テノックスの主要工法



直接基礎	深層改良工法	ソイルセメントコラム工法	テノコラム工法
		セメント系固化材と原位置土を攪拌混合し、固化反応によって地中に改良体(コラム)を造る地盤改良工法	
杭基礎	PHC杭	中掘拡大根固め工法	CMJ工法
		PHC杭を中掘方式で沈設し、杭先端にセメントミルクジェットにより拡大根固め部を築造する低振動、低騒音の工法	
	鋼管杭	高支持力先端拡大根固め工法	TN-X工法
		拡大・縮小可能な掘削ヘッドにより鋼管杭の先端に拡大根固め部を築造する高支持力工法。低振動、低騒音工法	
	鋼管ソイルセメント杭	中掘拡大根固め工法	TN工法
		鋼管杭を中掘方式で沈設し、先端にセメントミルクジェットにより拡大根固め部を築造する低振動、低騒音の工法	
鋼管ソイルセメント杭	鋼管ソイルセメント杭工法	ガンテツパイル工法	
	地盤にセメントミルクを注入攪拌混合してなる固化体(ソイルセメント柱)と外面突起付き鋼管を合成した「鋼管ソイルセメント杭」		
山留め	深層改良工法	羽根付き鋼管ソイルセメント杭工法	ATTコラム
		ソイルセメントコラムと羽根付鋼管を合成したハイブリットな杭	
山留め	深層改良工法	テノコラム自立山留め工法	マルチウォール工法
		テノコラムで構築した土留壁体による自立山留め工法	